

ダンスワークショップ ～ココロとカラダが動きだす～

一般社団法人 CIS

〒165-0031 東京都中野区上鷲ノ宮4-6-20 イサカビル2階

助成事業の概要

子供たちが地域で育っていくには、地域との繋がり、交流が大切であると考え地域とのコミュニケーションの機会を作り与えていきたいと考える。障害のある人が新しいことに挑戦することが彼等への刺激となり楽しむことも自然な生活であると思う。

*平成30年8月24日（金）13:00-16:00

S-BLINE DANCE STUDIO

当施設利用者（発達障害児、ダウン症児）、重症心身障害児（車イス利用者）定型発達児を同区（中野区）のダンススタジオに介す。

障がい児のダンスワークショップをライフワークとされているプロ振付師・ダンサー香瑠鼓に講師を依頼しダンスワークショップを開催

自分とは違う様々なタイプを持つ子供たちが一同に介し、共通の言語として音楽・ダンスで個々を結ぶ。それぞれの違いを個々が感じる中、お互いを意識しあいながらお互いを吸収して均一化することでお互いを認め合い共存することを目的とする。同じリズムを刻むことで一体感を生み出す。それぞれが自分の意思によって体を動かしているということが最重要となる。

事業の成果

最も大切にしていた成果として、個々それぞれできる事やできる範囲が違っていても楽しめる事、楽しいと思える気持ちは同じ、生活の中で楽しいと感じることは共通している。その気持ち

を全体で共有できたらと思っていた。

始めは初めて会うお友達、先生に戸惑う中で動かしていた身体も時間の経過と共に、個々の動きが自主的に、自由に変わっていった。自分の意思によって身体を動かし、皆の顔には徐々に笑顔が見える。

初めて会うお友達。車椅子のお友達、酸素チューブをつけているお友達も。いいのかな。近づいてもいいのかな。と遠慮がちに関わっていた子供達もいつの間にか全体で大きな輪となり、子供たち同士で「楽しいねー」と自然に口からこぼれていた。いろんなお友達がいる。でもみんな一緒。一緒にできることがあるということを実感できたのではと思う。

柔軟な考えを持つ子供たちであるからこそ自然な関わりができていた。

それぞれ違いがあっても、お互いをよく見て「あ～ちゃんはこんなことができる。」と個々の違いに気づいていく中でお互いを認めあっていた。

考え方がまだとても柔軟でありのままを受け入れることができる子供達であるからこそ自分との違いもわかり、同じ空間を共有する楽しさも素直に感じてくれたように思う。

まずは地域の中で、いろんなお友達がいるんだよと知ってもらえたこと。

地域で子供達が育っていく上で周りの存在や見守ってくれる人はとても重要と考えていたので存在を知ってもらえることで支援の手が増えていくこと、見てくれているという安心感も生まれる。

外に出ること、地域で行われるイベントに臆する

ことなく参加して行こう！と思えるきっかけ作りをしたかったため参加した、定型発達の子供達、障がいのある支援が必要な子供達がそれぞれ「楽しい！」と感じて時間を過ごしてくれたことはとても大きな意義があったと感じている。

■ 成果の広報・公表

*開催が決まり、参加者を募るために各施設利用者に告知チラシを配布。

会場となるS-BLINE DANCE CLUBにも告知を依頼し参加者を募る。

*講師 香瑠鼓先生に成果についての報告書を提出。ワークショップの今後の展開について話す。

*各施設SNSにてワークショップについて報告。

*中野区放課後等デイサービス連絡会にて成果や今後の展開について報告。

■ 今後の展開

今回1回のみ単発のワークショップとなったが継続して続けていくことで言葉の出ない子が体で自分を表現したり、音楽やダンスでココロを解放していくことができるのではないかと考えた。香瑠鼓先生は20年ほど前から障がいのある人たちが参加する「バリアフリーワークショップ」と続けていることもあり、その効果については実証済み。

唯一の正解や完璧さを求めるよりも、一人一人の自由で個性豊かな魅力を見つけていける今回のワークショップが起点となり、今後このワークショップが必要とされる場所で必要な人の近くに展開できるように広めていきたいと思う。